

[喜多院とその周辺を訪ねて(川越市)]見学レポート

正面が星野山無量寿寺喜多院(別名 川越大師喜多院)



院多喜城仙越州武



武州越前仙城多喜院
仙城多喜院は、武州越前郡仙城に在り、其の地、古くより名勝なり。院は、寛永十五年（一六三八）に、徳川家光公誕生の間、春日の局化粧の間、川越守 五百羅漢、

開運
厄除 元三大師
毎日 護摩祈祷

文化財拝観
寛永十五年（一六三八）
江戸城 紅葉山より移築する
徳川家光公誕生の間
春日の局化粧の間
川越守 五百羅漢

小江戸
川越七福神
第三番 大黒天

関東三十六
不動霊場
第二十八番





遠州流庭園
書院

客殿
庫裡・寺務所

三代將軍
お手櫃板

紅葉山庭園

松平大和守家廟所

文化財一覽
国指定重要文化財

客殿、書院、庫裡（以上
鐘樓門、職人尽輪（曾野
二年）、宋版一切経（四
歌仙（若佐又兵衛重）東

明星駐車場

P

五百羅漢

番所

白山神社

日枝神社

多宝塔

●太子堂

境内
みやげ品店

山門

齋靈殿

天海僧正
お手櫃の旗

大黒天

慈恵堂

水屋

高林謙三碑

天海僧正墓碑

歴応の碑

歴代住職墓所

延文の板碑

慈眼堂

あずま屋

お手洗

鐘樓門

●仙芳仙人塚

どろぼうはし

仙波東照宮

社務所

隨身門

文化財拝観

一、受付時間
三月一日〜十一月
十一月二十四日
十二月二十五日
四月二日〜四月五
その他院内行事の
一、お休み

多宝塔/埼玉県指定文化財





小江戸川越七福神

KITAEN
喜多院 (大黒天)
栗原寺まで約15分 成田山まで約3分

喜多院は、川越の中心部にあり、大黒天様を祀る。大黒天様は、金運、商運、健康運を司る。また、厄払いの神としても知られる。喜多院は、川越の歴史を伝える重要な場所である。



小江戸川越七福神
喜多院 (大黒天)
栗原寺まで約15分 成田山まで約3分

秋の七福神
秋の七福神は、七福神のうち、大黒天、恵比寿、胡弓、福禄寿、金童子、寿老人、子持孫作の七神を指す。この七神は、秋の収穫を祝い、豊作を祈る神として祀られる。また、厄払いの神としても知られる。

小江戸川越七福神委員会
街小江戸川越観光協会







山門/重要文化財/1632年建立



重要文化財・建造物

山門

県指定・建造物

番所

山門は四脚門しよくもん、切妻造で本瓦葺もとは後奈良天皇の「星野山」の勅額が掲げられていた。冠木かぶきの上の斗と供たけに表には竜と虎、裏に唐獅子の彫ものがあるほか装飾らしい装飾もないが、全体の手法が手堅い重厚さをもっている。棟札も残っており、天海僧正が寛永九年（一六三二）に建立したもので同十五年の大火を免がれた喜多院では最古の建造物である。

山門の右側に接続して建っているのが番所で間口十尺（三・〇三m）、奥行二間半（四・五五m）、起屋根、瓦葺の小建築で徳川中期以降の手法によるもので、県内に残るただ一棟の遺構である。

平成二年二月

埼玉県教育委員会

川越市教育委員会









四脚門形式





山門の左手は番所で埼玉県の指定文化財



正面は本堂の慈恵堂(じえどう)/埼玉県指定文化財





鐘楼門/重要文化財/1702年頃の建立と考えられる



鐘楼門 附銅鐘

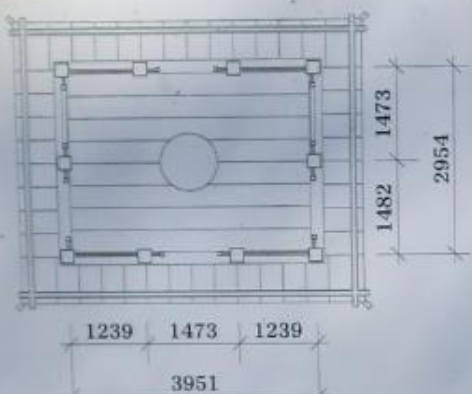
(国指定重要文化財・建造物)

江戸時代の喜多院の寺域は現在よりも相当広く、当時鐘楼門は、喜多院境内のほぼ中央にあり、慈眼堂へ向う参道の門と位置づけられます。また、上層にある銅鐘を撞いて時を報せ、僧達の日々の勤行を導いたと考えられます。

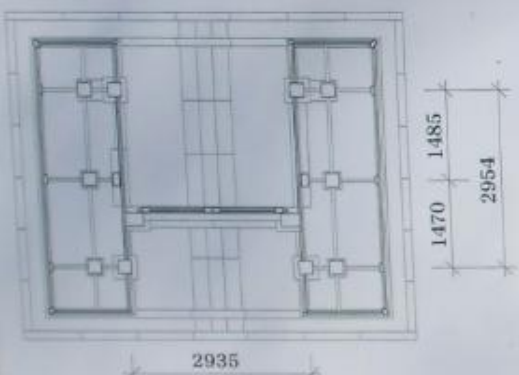
鐘楼門は、桁行三間、梁行二間の入母屋造、本瓦葺で袴腰が付きまます。下層は角柱で正面中央間に両開扉を設け、他の壁面は豎板張の目板打です。上層は四周に縁・高欄をまわし、角柱を内法長押、頭貫(木鼻付)、台輪でかため、組物に出三斗と平三斗を組みまます。中備はありません。正面中央間を花頭窓とし両脇間に極彩色仕上げの雲竜の彫物をかざり、背面も中央間を花頭窓とし両脇間に極彩色仕上げの花鳥の彫物を飾ります。上層には、元禄十五年(一七〇二)の刻銘がある椎名伊予藤原重休作の銅鐘を吊っています。寛永十五年(一六三八)の大火に焼け残ったともいわれますが、細部意匠などから判断して銅鐘銘にある元禄十五年頃の造営と考えるのが妥当だと考えられます。

昭和二十一年十一月二十九日指定

川越市教育委員会



鐘楼門 上層平面図



鐘楼門 下層平面図











太子堂



喜多院太子堂縁起

本年は聖徳太子御忌一千三百五十五年に当り
ます申すまでもなく聖徳太子はわが日本の文
化史上における代表的偉人であるその政治上の功
績は云ふまでもなく学問著述教育宗教音楽芸
能工芸築建医療養護社会施設その他諸道の祖
として信仰されております特に室町の時代末
には仏教宗派にとりかはれず太子を芸道の祖と
して尊ぶ信仰が生れ大工左官屋根駈等の仕事
師の絶対的信仰をあつめたのであります
当山の太子堂は弘化四年三月当山末寺金剛院
境内地に創建され明治以後廃寺にもない日
技神社境内に移し更に明治四十二年三月現在
の多宝塔建立地に移築しそして昭和四十七年
十一月この地に立派な六角太子堂として再興
したものでありますこの度慈恵堂多宝塔大修
繕の勝縁を記念して太子堂再興新太子像奉刻
本遺塚石垣等建設と共に川越駈組合代表西
村甚平氏が中心となり喜多院太子講の結成を
見まして十方有縁の篤信徒に太子のお徳を戴
けることはまことに佛天の恵み千載一偶の法
縁であります
こゝに畧縁を誌し記念とする次第であります

昭和五十一年二月二十二日

星 岳 亮 善

識

この奥に五百羅漢がある













さまざまな石造物





左手は白山権現の社



はく さん こん げん 白 山 権 現

830 (天長7年) 慈覚大師円仁じかくだいしえんにんが喜多院きくわいんを創建された時に、天台宗修験道しゅげんどうの霊場である白山より、この守護神しゅごしんとして白山の神仏かみつの分霊を祀ったと伝えられています。

右道路向かい側ひえじんじゃの日枝神社は、同じく創建時に、天台宗の本山である比叡山ひえいざんふもとの日吉大社ひよしだいしゃの神様の分霊かみつを祀った神社です。

天台宗では、神仏習合しんぶつしゅうごうといい、お寺も日本の神様にお守りいただきながら、神仏かみつともに礼拝らいはいし、人々の幸せをお祈りします。

* 修験道しゅげんどう = 神様と仏様の両方の力を得る修行方法

Hakusan Gongen

It is said that in 830 CE (Year 7 of the Tenchō Era), when the priest Ennin (also known as Jikaku Daishi) founded the Kita-in Temple complex, he created a place to re-enshrine the Buddhas and gods of Mt. Hakusan, which was considered hallowed ground in the Shugendō* offshoot of Tendai (Tiantai) Buddhism, to serve there as protective deities.

Hie Shrine, which is directly across from the road to the right, was also built to re-enshrine the gods of Hiyoshi Taisha at the foot of Mt. Hie, the mountain at which the head temple of Tendai Buddhism is located.

In matters of supernatural guardianship, the Tendai Sect of Japanese Buddhism does not impose rigid distinctions on the places that people choose to worship—be they Buddhist temples or indigenous Japanese shrines—and respects people's wishes to pray to both gods and Buddha's for their worldly wellbeing.

* Shugendō: a syncretistic practice through which it is believed adherents can gain both the power of the Buddhas and the Shinto gods.

天海大僧正の像



てんかいだいそうじょう
天海大僧正
(1536～1643)

喜多院第27世住職であり、会津高田（現福島県会津美里町）出身、江戸時代初期、喜多院を復興しました。

将軍徳川家康公の信頼あつく、宗教政策の顧問的存在として助言を行い、将軍も度々、川越城また喜多院を訪れています。

108歳で遷化（亡くなる）後、朝廷より「慈眼大師」の称号を賜りました。

Tenkai (1536—1643)

The 27th Abbot of Kita-in Temple was born in Aizu Takada (present-day Aizu Misato-chō, Fukushima Prefecture). In the early Edo Period, he restored the Kita-in complex. The abbot had close ties with the Tokugawa Shogun Tokugawa Ieyasu. In fact, he acted as an advisor on religious policy for the Shogun, and the latter made multiple visits to the abbot at Kawagoe Castle and Kita-in Temple.

After passing away at the age of 108 years old, the Imperial Court bestowed upon him the posthumous title of Jigen Daishi.

宝篋印塔に屋根が付く



大きな軒反り



軒先も細かく彫られている





弁財天巖島と太鼓橋



江戸時代の喜多院周辺の絵図



ここは仙波東照宮入口

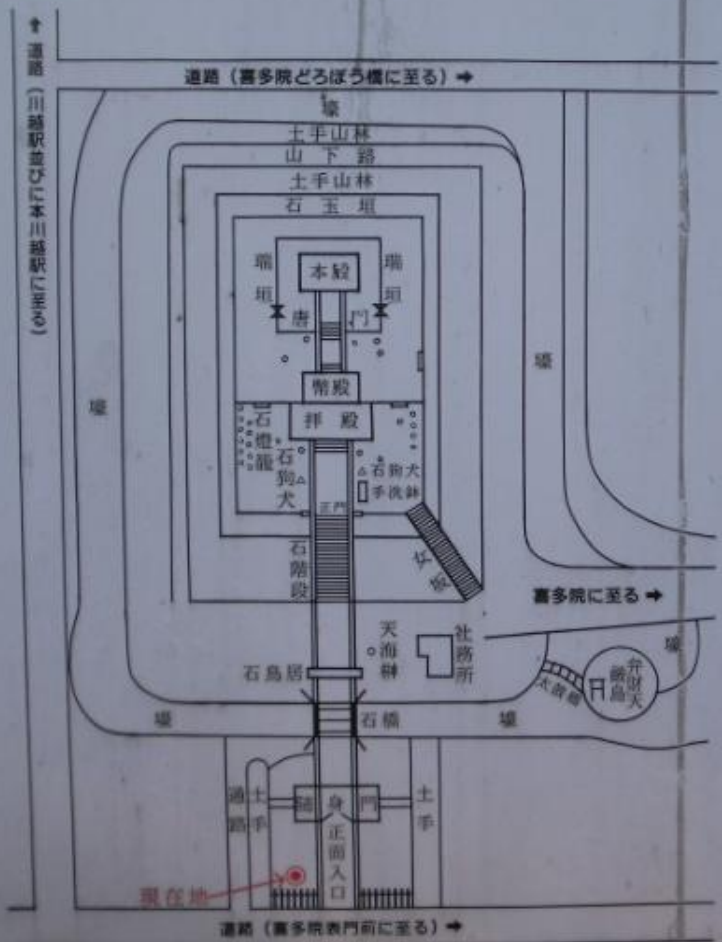


<http://www.uraken.net/rail/travel-urabe189.html>

重要文化財・建造物

仙波東照宮

徳川家康をまつる東照宮は、家康の没後その遺骸を久能山から日光に移葬した元和三年（一六一七）三月、喜多院に四日間とう留して供養したので、天海僧正が寛永十年（一六三三）一月この地に創建した。その後寛永十五年（一六三八）正月の川越大火で延焼したが、堀田加賀守正盛を造営奉行とし、同年六月起工、同十七年完成した。当初から独立した社格をもたず、喜多院の一隅に造営されたもので、日光・久能山の東照宮とともに三大東照宮といわれている。社の規模は表門（隨身門）・鳥居・拝幣殿・中門（平唐門）・瑞垣・本殿からなっている。本殿の前には歴代城主奉献の石灯籠がある。なお拝殿には岩佐又兵衛勝以筆の三十六歌仙額と幣殿には岩槻城主阿部対馬守重次が奉納した十二聡の鷹絵額がある。



埼玉県教育委員会
川越市教育委員会

隨身門/重要文化財



重要文化財・建造物

東照宮隨身門ずいしんもん・石鳥居いしどりい

境内入口にある隨身門は朱塗やうあし八脚門・切妻造でとち葺形銅板葺ぶきがたしうばんぶきである。八脚門とは三間×二間の門で、門柱四本の前後に各一本ずつの控柱をもっている屋根つき門のことである。以前には後水尾ごみずのお天皇の御染筆なる「東照大権現」の額が掲げられていた。記録によるとこの勅額は寛永十年（一六三三）十二月二十四日とあるから東照宮の創始の時期を知るひとつの資料となっている。石鳥居は寛永十五年（一六三八）九月に造営奉行の堀田正盛まさもりが奉納したもので、柱に「東照大権現御宝前、寛永十五年九月十七日堀田加賀守従四位下藤原正盛」の銘文が刻まれており、様式は明神鳥居である。

川越市教育委員会







八脚門形式





石鳥居/明神鳥居様式/1638年造立



正面が仙波東照宮/重要文化財



階段上から振り返る



拝殿



拝殿と幣殿(右手部分)を右後方から見る



拝殿と幣殿(左手部分)を左後方から見る



拝殿左側面



アップ



本殿



本殿



本殿右側面



アップ



アップ



星野山無量寿寺南院遺跡の地藏菩薩像群



南院遺跡 参考ホームページ

<http://www.tabi2ikitai.com/japan/j1123a/a02012.html>





こんな板碑もあった



川越歴史博物館



参考ホームページ

<http://mapbinder.com/Map/Japan/Saitama/KawagoeShi/Town/Kitain/Kitain.htm>

http://www.tesshow.jp/saitama/kawagoe/temple_kosenba_kita.html

<http://www.tabi2ikitai.com/japan/j1123a/a02001.html>



なお、「慈眼堂(重要文化財)」については別ファイル「慈眼堂古墳(川越市)」を参照のこと

さて、ここは喜多院のすぐ近くにある成田山川越別院(川越別院成田山本行院)



山門



本山 成田山川越別院

小江戸川越七福神

NARITASAN

第4番 成田山 (恵比須天)

喜多院まで約3分 運醫寺まで約8分



喜多院不動通り商店街









正面は本堂



成田山川越別院

所在地 川越市久保町

成田山川越別院は、川越別院成田山本行院と称し、いつの頃からか「久保町のお不動様」とも呼ばれるようになった。

本尊は不動明王で、内外の諸難や汚れを焼き払い、人々を守るといわれ、願をかける時などに奉納する絵馬のため、境内には絵馬堂も建立されている。

当寺は、江戸時代末期の嘉永六年（一八五三）、ペリーが黒船を率いて浦賀に来航した年に、下総の国新宿（現葛飾区）の石川照温が、廃寺となっていた本行院を成田山新勝寺の別院として再興したのが始まりといわれている。石川照温については、次のような話が伝えられている。

農家に生まれた石川照温は、三十歳の頃に目が見えなくなってしまう。光明を失くした照温は、ある日のこと自ら命を絶とうとしたが、その時不思議なことに光を失った眼前に不動明王が見えたので、にわかには仏道に目覚め、それまでの生活を改めるとともに、有名な成田山新勝寺のお不動様を熱心に信仰するようになった。

そのかいあってか、失明した目もいつか昔のように見えるようになったので、いよいよ仏道に励み、当地に寺を建立し、多勢の信者から慕われるようになったとのことである。

なお、照温の碑が、近くの中院墓地に建てられている。

昭和五十七年三月

川越市

本堂





祈祷殿



水屋



右から大師堂、開山堂、出世稲荷(鳥居が見える)、福寿殿と並んでいる



山門の左手は大師堂



参考ホームページ

<http://www.koedokko.net/meisvo/05/naritayama/naritayama.html>

<http://www.tabi2ikitai.com/japan/j1123a/a01084.html>

<http://d.hatena.ne.jp/take369/20110909/p1>



さて少し離れるが、川越八幡神社がある







拝殿/鉄筋コンクリート造

























正面は民部稲荷神社



川邊八幡神社由緒

第一次第 八幡神を祀るに始りて三十二年
一、高松藩 八幡宮(天明十九年十一) (市川田町)
二、高松藩 八幡宮 (別名西神天皇 久保宗十五代)

由緒

高松藩の由緒は、元禄七年(一六九〇)高松藩主・松平信綱が朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事から始るといふ。この時、高松藩の守護神として祀られていた八幡神は、藩主の討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。この八幡宮は、天明十九年(一八〇九)に、藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。この八幡宮は、天明十九年(一八〇九)に、藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。

寛政七年(一七九五)三月三日、高松藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。この八幡宮は、天明十九年(一八〇九)に、藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。この八幡宮は、天明十九年(一八〇九)に、藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。

天明十九年(一八〇九)八月、高松藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。この八幡宮は、天明十九年(一八〇九)に、藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。

天明十九年(一八〇九)八月、高松藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。この八幡宮は、天明十九年(一八〇九)に、藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。

天明十九年(一八〇九)八月、高松藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。この八幡宮は、天明十九年(一八〇九)に、藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。

天明十九年(一八〇九)八月、高松藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。この八幡宮は、天明十九年(一八〇九)に、藩主・松平信綱が、朝廷に謀反を企て、幕府・上院・下院の三ヶ所を討つた事を知り、怒り、藩主を討つた。藩主は、この事を知り、八幡神を祀り、八幡宮を建てた。この八幡宮が、後の高松藩八幡宮である。

民部稲荷神社



民部稻荷神社

御祭神

倉くら稻いな魂たま神かみ

創立年代は不詳であるが、川越に感登上人の開山した蓮馨寺がある。この感登上人に随従して来た人に猪鼻民部がいた。猪鼻川越に土着して蓮馨寺の門前町を拓いた。呼ばれた猪鼻町(現在仲町、連雀町の銀座通り商店街)と猪鼻町が飛地とされて大字脇田に移り名主役を務めたゆえに八幡神社は今は東に入口があるが昔は脇田に向

川越素麺によると梵心山民部稻荷の老狐物語の伝説が記されて浪人になりすました。昔八王寺在に老狐が人に化身して民部と名前乗り浪人になりすました。ある夜某寺の和尚が小僧にお前はいつもどこへ出かけたか尋ねると民部様のおもてなしと答えた。和尚は驚いてかかると武士の邸宅も住みお世話になる民部様にお礼を述べ、ご挨拶がしたいからお越し下さるようにと小僧にお奨めしてこいと申し付けられた。早速翌日の夜分参上するとの返事であつた。その夜浪人の民部が供の者をつれて寺に参上し和尚の手厚いもてなしと四心山話に花が咲き、話が角力のことになりだら民部は膝を乗り出し角力自慢を話した。早速民部は庭掃除に行くと、昨夜の角力場のあとに狐の毛が沢山散らばつていた。これに和尚に告げると和尚は小僧に口外を秘めさせ、民部様に礼言の使者を立てたら民部は故あつて川越の梵心山と言ふ所に新しく住むことになつたと厚く礼を述べ、打身の手当を教えた。伝説に遺されてこの梵心山に民部稻荷が古くあつたが荒廢し、後に八幡神社の境内に移されて角力の絵馬納めが今もお納めあらたかだとして打身している。面白くは角力にこしつけ、四角力の水商売の人達の信仰が榮であつた。項もあつた。以上



後厄
26才
昭和62年生
満20才過ぎ
43才
昭和45年生
満42才いじ



裏手から神社域全体を見る







本殿/鉄筋コンクリート造



参考ホームページ

<http://skyimpulse.s26.xrea.com/kawagoe16.html>

<http://www.koedokko.net/meisyo/06/yahata/yahata.html>

